

長期投薬患者に対する薬剤師の電話による治療支援の有用性評価

○新田 光代¹, 原 和夫^{1,3}, 山本 信夫¹, 亀井 美和子², 木内 祐二¹, 原口 一広¹
(¹昭和大薬, ²日本大薬, ³望星薬局)

【目的】本研究は、患者の服薬期間中に保険薬局の薬剤師が電話で患者の治療を支援することにより、長期処方に伴う問題点を改善させることができるかを評価した。

【方法】研究デザインは対照群をおく前向き研究とした。対象者はアムロジピン製剤を含む6品目以下の薬剤を処方された60歳から74歳までの者とし、薬剤師が定期的に電話での服薬状況確認と相談応需を行うものを介入群とし、行わない者を対照群とした。対象者は処方日数が1ヶ月の者と、2ヶ月以上の者に分け、介入群においては1ヶ月処方の者には投薬2週間後に、2ヶ月以上の者には1ヶ月ごとに電話による支援を行った。来局時には両群ともに同様の支援を実施した。支援内容は、服薬中のイベント（体調変化、服用中断、他科受診、副作用、医療用医薬品・OTC医薬品・健康食品等の相互作用、残薬の品質変化、生活習慣の変化等）の有無の把握と指導および相談応需とした。評価時期は3~4ヶ月後および6ヶ月後とし、介入群および対照群とでイベント収集状況、服薬の理解、残薬等を比較した。

【結果および考察】介入群58人、対照群53人の1処方あたりの平均投与日数は介入群49.2日、対照群49.8日、平均処方品目数は介入群3.4、対照群3.4であった。介入群における3~4ヶ月後の評価結果では、初回投与での長期処方、副作用発現、相互作用の可能性のある食品や健康食品の摂取等のイベントを収集した。介入支援は薬剤師の職能が発揮でき、患者にとって薬剤師がより身近な存在となり、アドヒアランス向上につながると思われる。